工業部会通信

編集：かながわ経済新聞
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042（851）3021
プリントしてご自由にお読み下さい。

かながわ経済新聞 KANAKEI

河野崇・今年度会長が語る

「青工研」とは

出身企業は100社以上

「自身の成長こそ自社の成長」

相模原の地域経済を下支えする製造業を中心に、満42歳以下の若手経営者で構成される「相模原市青年工業経営研究会（青工研）」が、会員を募集している。青工研は相模原商工会議所の下部組織で、現在は40社近くの経営者が加入。42歳になるまでの限られた期間のなかで、本気で経営の勉強を続けている。これまで青工研からは100社以上の社長を輩出。なかには上場企業もある。青工研の今年度会長の河野崇会長（河野製作所社長）に会の魅力を聞いた。

―青工研とはどんな組織ですか。

「相模原商工会議所工業部会の下部組織にあたります。42歳以下の経営者、またはそれに準じるメンバーが集まって、経営上の諸問題などを本気で討議します。『地道に自ら学ばん』を基本理念に35年以上にわたり活動しています」

「経営学は本を読めば分かりますが、それだけでは経営者としては十分でありません。青工研では、仲間と本気で交流することで、自分を磨くことに重点を置いています。自身の成長こそが自社の発展につながるという考え方です。今の世の中には珍しく〝人間味〟がある会ですね」

―組織の構成について教えて下さい。

「現在は40社近くが加入しています。満42歳以下であることが入会条件ですが、単に工業といっても会員は異業種そのものです。ただ、入会して組織内で営業しようという人は、残念ですが会の目的とは違います。あくまでも学びの場であり？自己研鑽する場なのです。

―具体的にはどんな活動をするのですか。

基本理念は『地道に自ら学ばん』です。そして主軸となる活動は、ブロック会と呼ばれる勉強会です。本年度の統一テーマ『選択と集中』のもと4つある各ブロックが年間テーマを掲げます。そうしたテーマに基づき各会員が年1回、担当となり、自身やメンバーの成長につながるブロック会を企画します」

「ブロック会の開催には、担当者が実施計画書を書き込み、三役会を経て役員会で審議し、承認されることが必要になります。まさに組織運営そのものを学べます」

―本年度の統一テーマ・スローガンとして「選択と集中　時代の変化に対応しろ」については。

「停滞を続けてきた国内経済ですが。2020年東京オリンピックで好景気が期待されています。しかし、好景気の波を捉えたり、オリンピック後に懸念される景気の落ち込みなど、時代の変化に対応するには、中小企業は自社の〝足場〟を固めなければなりません。そのためには今一度、自社の事業を見つめ直し、強みを選択することが不可欠になってきます」

―ご自身についてお聞かせ下さい。青工研に入会したきっかけは。

「会OBの紹介です。入会したのは10年以上も前です。サラリーマンを辞めて父の事業を手伝うことになりました。事業承継しなければならないこともあり、入会を決めました。以来、青工研活動で時間を割くことも多々ありますが、あえて時間を作ることも経営者にとっては大切です」

―青工研に入って何か変わったことはありますか。

「自分自身が外に目を向けられ、行動するようになりました。また、社内外を問わず、人も大切にするようになったと思います。人として成長できたことが何よりも財産ですが、自社の発展にもつながりました」

「入会当初は父も入れて家族3人で工場をやっていましたが、今では社員が15人になり、本業も発展しました。繰り返しになりますが、自身の成長が自社の発展につながったのです」

さがみはらロボ協議会

産総研の大場氏講演

導入支援センターも見学

さがみはらロボットビジネス協議会は6日、サン・エールさがみはら（緑区西橋本）で講演会「生活支援ロボット研究開発最前線」を開いた。2部制。

第1部では、産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター・副センター長の大場光太郎氏を招いて講演会を開いた。少子化、超高齢社会による労働力不足が懸念される中、生活支援ロボットが労働力の補完や新たな産業の創出の手段として期待される。

大場氏は講演で、生活支援分野におけるロボットの開発動向や社会実装に向けた課題について解説した。

また、第2部ではさがみはら産業創造センター内に9月開設した「さがみはらロボット導入支援センター」について、統括コーディネーターの宮川孝文氏が登壇。同センターの機能を紹介した。

講演する産総研の大場氏

同センターは産業用ロボットの導入支援や技術者の育成を通じて、市内モノづくり企業の生産性の向上などを狙いにオープンした。講演終了後には見学会も実施された。

導入支援センターを見学する参加者

職人がいい、施工がいい、住む人がいい。
そこに 良いまちが生まれる。

まちづくりの職人 久野新一

創業96年

有限会社
トータルハウジング久野

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名 2-11-26　TEL 042-762-0096　FAX 042-760-0078
フリーダイヤル 0120-61-0096　URL http://www.t-h-kuno.co.jp/